

# 長野県森林づくりの 費用負担を考える懇話会

平成19年6月18日 説明資料

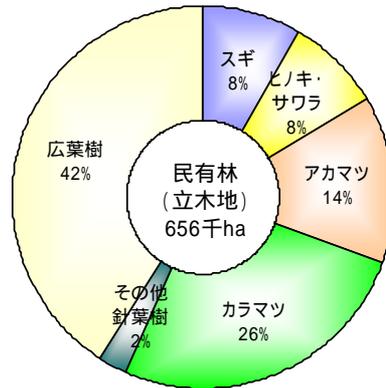
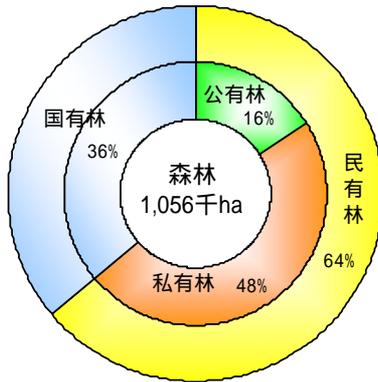


## 森林の現状と課題

## 長野県の森林

- 森林面積 105万6千ha (森林率 8割)
- 国有林 4割 民有林 6割

- 針葉樹 6割 広葉樹 4割
- 人工林率 4.9%



## 森林の果たしている役割

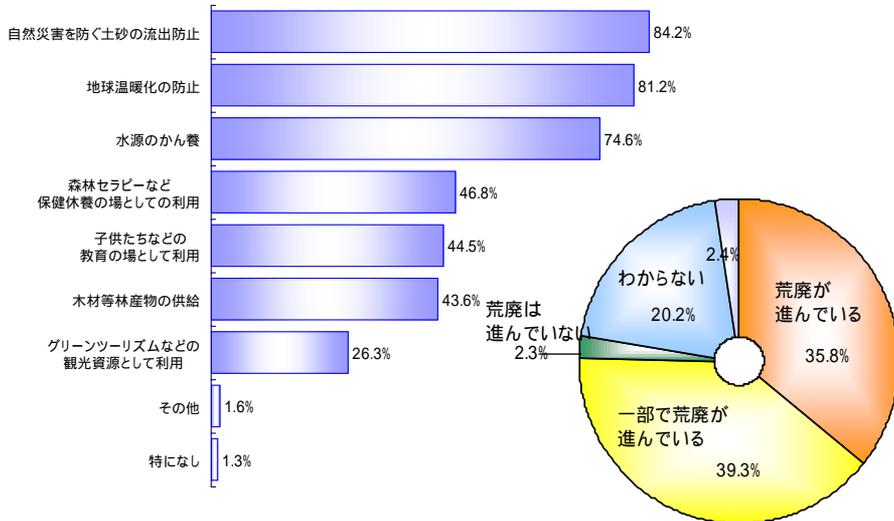
- 県土の保全
- 水源のかん養
- 地球温暖化の防止
- 保健休養の場の提供
- 生活環境や自然環境を守る
- 木材等の林産物の供給 など

森林の公益的かつ多面的な機能

3兆681億円

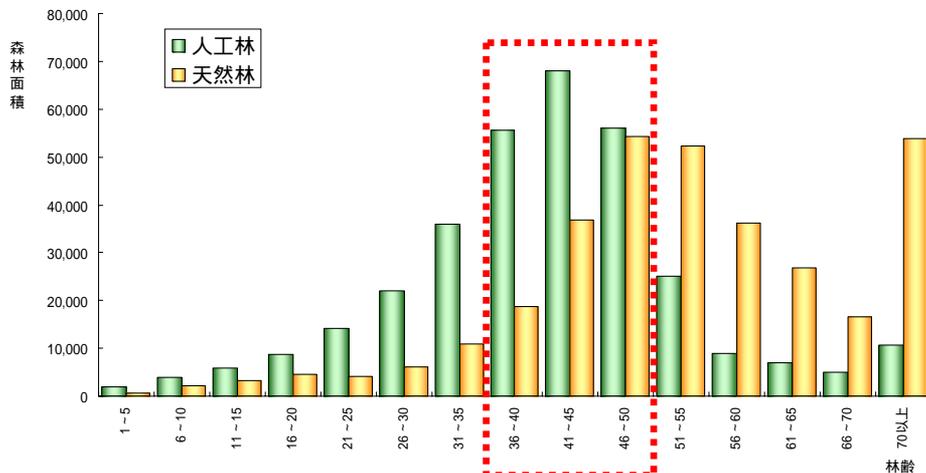
「緑の社会資本」である森林

# 森林に対する県民の期待

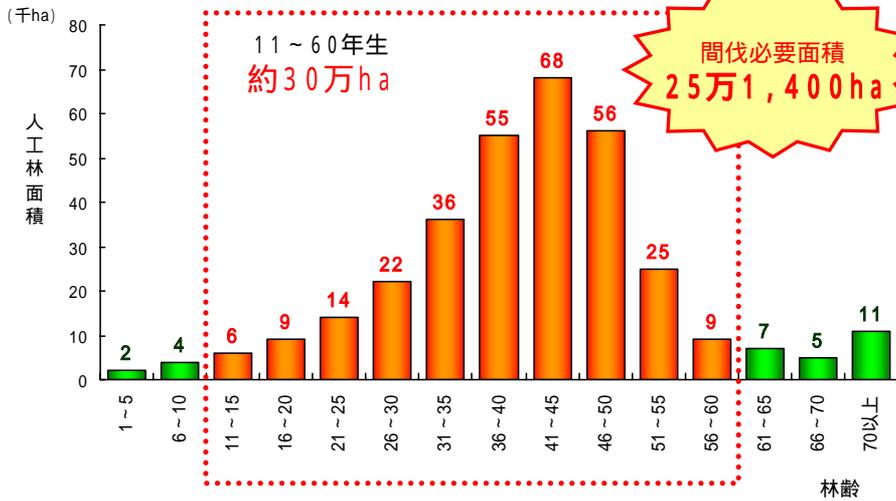


本県の森林は今...

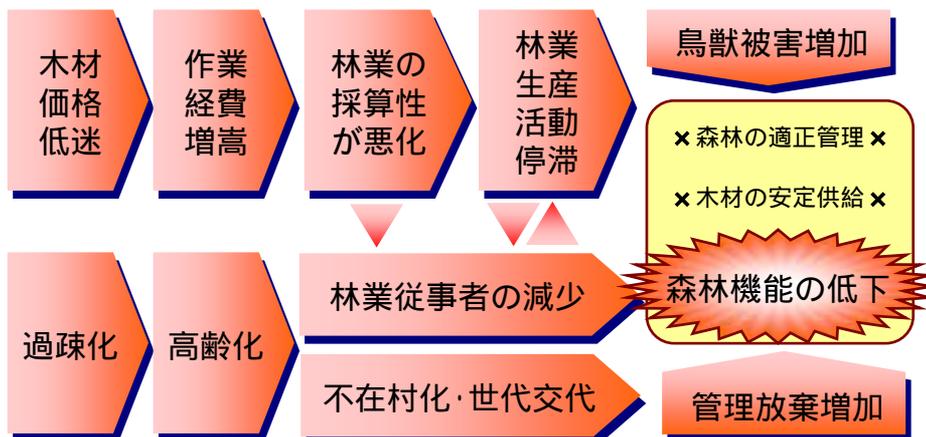
# 森林・林業の現状と課題



# 整備が必要な人工林

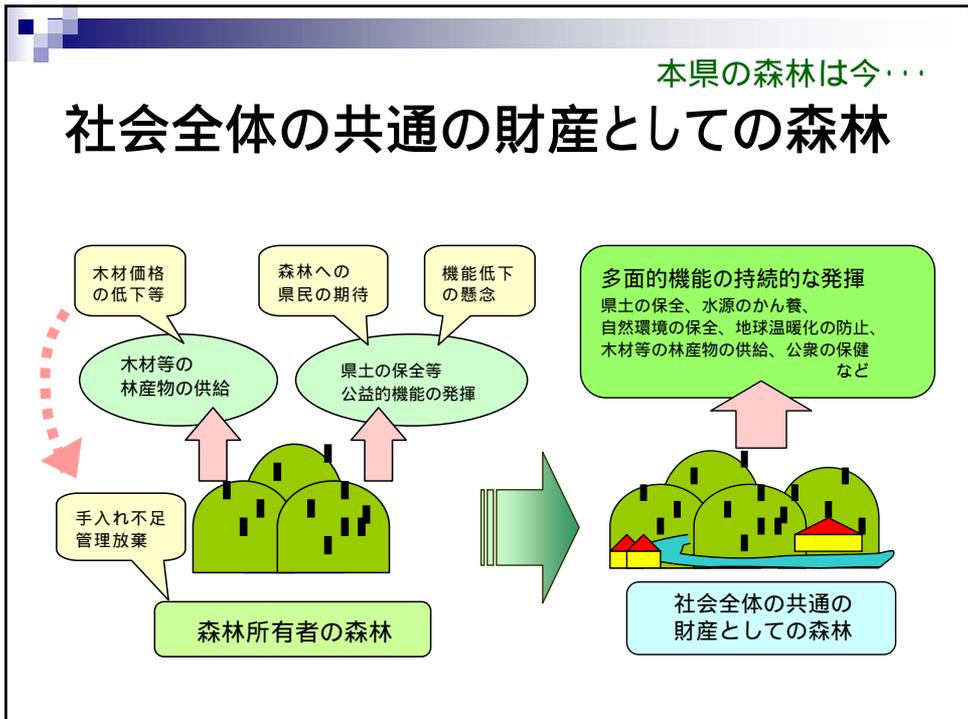


# 森林・林業の現状と課題





本県の森林は今...





## 森林づくりの取組等

森林づくりの方向性

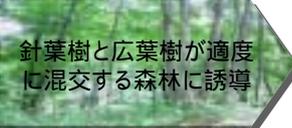
### 森林づくり条例の制定

森林が持続可能な社会を支える基盤であり、社会全体の共通の財産であることに かんがみ、その機能が持続的に発揮されるよう、それぞれの地域において、県民の理解と主体的な参加の下で、森林づくりを行う。

### 森林づくり指針の策定

本県の目指すべき森林の姿と、その実現に向けた森林づくりに関する施策を推進するための基本指針の策定

# めざす森林の姿

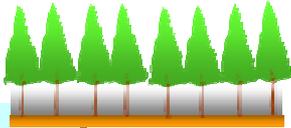


針葉樹林、  
広葉樹林、  
針広混交林が  
バランスよく配置された  
**多様性の  
ある森林**



# 森林づくりの展開方向

第1段階(現在から概ね20年間)  
【強度間伐を中心とした健全な森林づくりの重点実施期間】



第2段階(概ね30年間)  
【単純な一斉林から多様性のある森林への誘導段階】



50年後  
【整備、利用、再生等が循環に行われる段階への移行期】



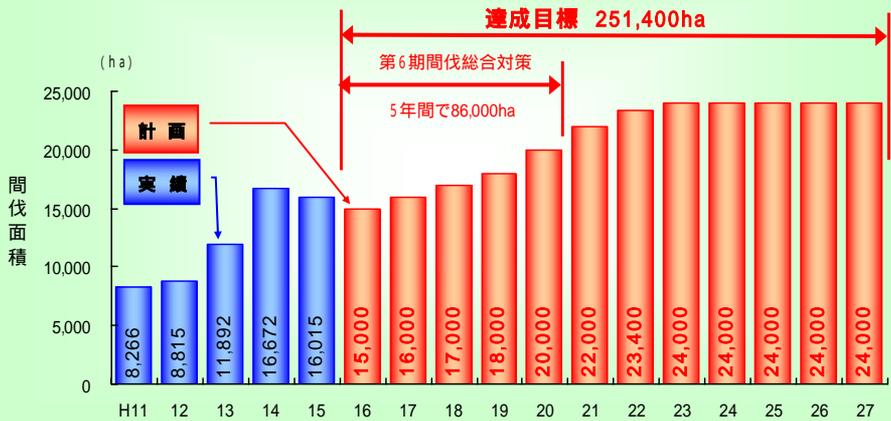
22世紀  
【針広混交林が成熟し多様性のある森林が支える森林社会の実現へ】



# 信州の森林づくりアクションプラン



平成27年度までに長野県の民有林における間伐すべき森林、  
県土の5分の1にあたる251,400ヘクタールすべてを手入れします。



# 信州の森林づくりアクションプラン



間伐材の搬出・利用を促進



高性能林業機械

整備台数 75台(H15)  
180台(H27)



木造住宅

(信州の木を50%以上利用し、助成等を活用)

年間 66戸(H15) 1,000戸(H27)



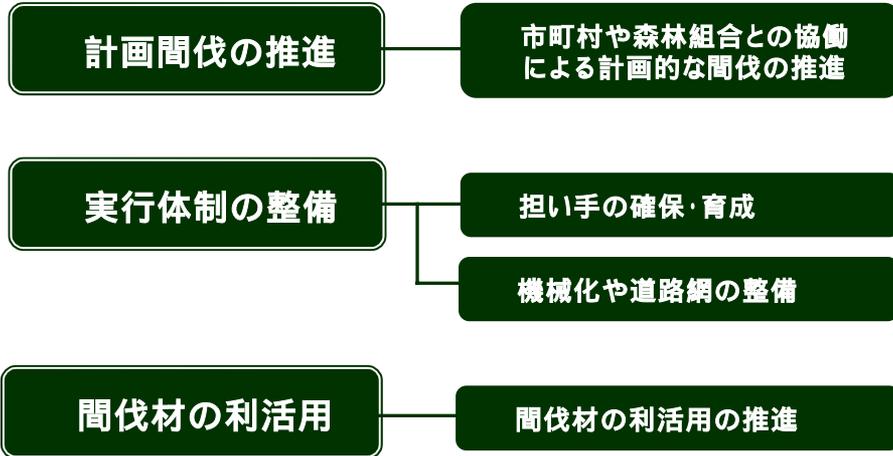
素材生産量

年間 245千m<sup>3</sup>(H15)  
335千m<sup>3</sup>(H27)

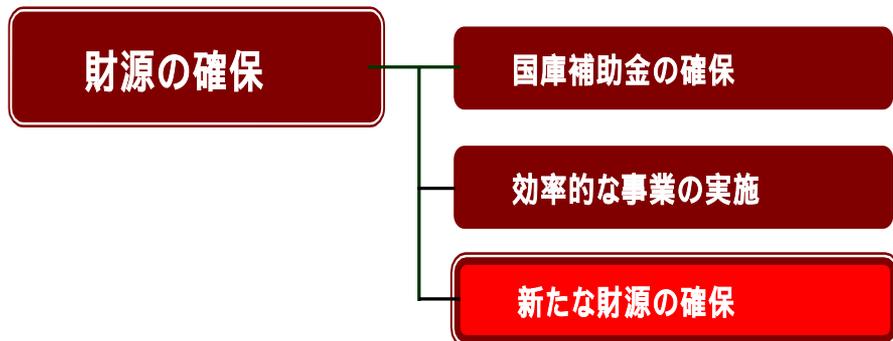
ペレットストーブ

整備台数 150台(H15) 3,700台(H27)

## 森林整備を着実に進めるために



## 森林整備を着実に進めるために



## 他県の実施状況

森林整備等を目的とした独自課税  
個人・法人県民税均等割の超過課税方式で24県が導入

## 県内における取組

流域あがでの連携  
水源林の整備として上流地域と下流地域が連携  
基金等により上流域の森林整備事業に対して支援

企業との連携  
企業が森林の里親として森林整備の資金や労働力を提供

## みんなで支える森林づくり

すべての県民が森林のもつ様々な機能の恩恵を享受

森林を健全な姿で次の世代に引き継ぐために

県民全体で支える森林づくり

